

**研究機関名：下関市立市民病院**

**研究課題名：**

クロストリジウム・ディフィシル毒素（CDT）と抗菌薬適正使用（AS）観察研究：2008－2017年

**研究期間：**

西暦 2008 年 1 月 ～ 西暦 2017 年 12 月

**対象材料：**

- 病理材料（対象臓器名： ）  
生検材料（対象臓器名： ）  
血液材料  
遊離細胞  
■その他（ ①排泄便の CDT、②抗菌薬使用量 ）

**上記材料の採取期間：** 西暦 2008 年 1 月～西暦 2017 年 12 月

**意義：**

世界保健機関（WHO）が耐性菌を減らすため抗菌薬適正使用（AS）を提唱し、日本政府も同様に目標を掲げている。AS により、抗菌薬関連下痢症でもある CDT 陽性の感染症（CDI）を減らすことが確認できれば、次の患者にとって朗報である。

**目的：**

CDT が陽性又は再陽性となった患者の入院で占める率が、AS により減ることを検証する。その指標として、病棟や年次の抗菌薬使用密度（AUD）を用い、また病棟の特性も検討する。

**方法：**

対象期間に各年・各病棟における CDT 陽性の患者率に対して、23 種の抗菌薬の AUD のロジスティック回帰分析を行い、各剤のオッズ比と 95%信頼区間を得る。危険率が低く、オッズ比が高い抗菌薬を検出して、AS の効果を見る。また再陽性の患者率について病棟特性を探る。

**個人情報の取り扱い：**

患者は特定されない。  
過去の侵襲のない排泄便の検査と抗菌薬使用の医事データであり、今後も危害の及ぶ検査はない。

**問い合わせ・苦情等の窓口：**

〒750-8520  
山口県下関市向洋町一丁目13番1号  
下関市立市民病院 呼吸器外科 部長（感染管理室 室長） 吉田 順一  
TEL 083-231-4111 FAX 083-224-3838